

# ***MESA/BOOGIE***

**STEREO SIMUL-CLASS 2:90**

**取扱説明書**

このたびは本製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。

この製品は、今日の3.5インチサイズのパワーアンプの中でも、最もトーンが優れた製品の1つです。決してただの2チャンネル仕様のパワーアンプと思わないで下さい。このアンプは非常に高い出力を誇り、アリーナサイズの会場での使用でも全く問題ありません、各チャンネルでは約90Wの出力でありながら、厳しいトーン/ヘッドルームテストを経たそのパワーは、アンプの定格出力を倍増させるほどの巨大さを誇ります。ここでも、数多くのMESA BOOGIE製品で応用されているコンセプト「パッケージは小さく、サウンドは大きく」が十分に発揮されているのです。もし本製品を既に使用されたことがあるとしたら、どれぐらい巨大で迫力があり、かつそのサウンドが甘く芳醇かということをお分かりいただいているのではないかと思います・・・しかしもし噂だけで本製品を選んだのだとしたら、ちょっと待って下さい！お使いのプリアンプ(TriAxisであれば良いのですが)とお好みのスピーカーキャビネットと接続してみてください。そのトーンを体験した数多くの本製品のオーナーたちは、すぐにべた褒めを始めるのです！さあ、待ってられません。文字でお伝えするよりも、1つのコードや音がこのアンプのサウンドについてより多くを語ります。もちろん、あさってでもいつでも、演奏していて指が痛くなったらこちらの取扱説明書に戻ってきてください。そうすれば本書をより楽しみながら、トーンについてのアイデアも固まることでしょう。本製品の巨大なサウンドと弾力のあるフィーリングは、特許取得のサイマルクラス動作によるものです。サイマルクラスの魔法のようなサウンドにたった今気付いた人々には、かいつまんで順序良く説明しましょう。1982年後半、パワーセクションにおけるトーン形成についてある実験が行われました。それは、秘密の出力トランスとユニークなパワー管の組み合わせによるもので、2つのタイプの真空管の動作を同時に行うことが出来る最初のチューブ・パワーアンプが誕生したのです。これらの2つのタイプ(またはクラス)の動作は、クラスA三極管と、クラスAB五極管です。古いタイプのクラスA配線は、50年代の初期のツイードアンプで有名になったもので、それほどパワーはないのですが、甘く弾むようなトーンを生み出しました。電気を使った音楽がよりポピュラーになるにつれ、より音量の大きいパワフルなアンプが必要になってきました。クラスAは其中で不要とされ、代わりに好まれるようになったのが、より効率よくクールに運転するクラスAB五極管です。そう、甘いツイードアンプの時代は終焉を迎えたのです。我々がよく知っているように、過去の宝石のような物事は後になってより思い出されるものです。とにかく、それら両方のスタイルはそれぞれ特長がありました；クラスA三極管は、甘いトーンを持ち、弾力があって演奏しやすいフィーリングを持っています。またクラスAB五極管は、パワーとパンチがあって、信頼性の高い動作をします。我々は、それら全ての特性をまとめてしまうのが完璧だと考え、二つの真空管のクラス動作をパワー部で同時に行えるようにしました。それが、サイマル(=同時)クラスと呼ばれる所以です。その10年後には、サイマルクラスは人気のあるBOOGIEのコンボアンプの第3世代と、第2世代のパワーアンプにも採用されました。このサイマル"2:90"ステレオは、そのような伝統を受け継ぎ、また祖先たちからさらに改良されています。より良い、幾分"アンプヘッドのような"ドライバーステージを採用することによって、本機は"ギターのパワーアンプで失われがちな魂を伝えることが出来るのです。

## フロントパネル

本機2:90のフロントパネルを見てもらえば、おそらく使用については簡単であると思うのではないのでしょうか？・・・しかしよく見ると、3つの小さなLEDに、"DEEP、HALF、MODERN"と書いてあります。フロントパネルの他の部分は見たままなので、まずはこの謎の3つのライトについて説明しましょう。"足りないぐらいが丁度良い"という原則にならって、我々は本機において見えない部分があなたに混乱を招かないようにしています。2:90を回転させてみて下さい。本体の下側左の角に、"Voicing Switch(ボイシングスイッチ)"と書いてあるのが見えますか？この3つのジャックは、フロントパネルの謎の3つのライトに繋がっています。またそれらはそれぞれ、1つのボイシングとライトをオンにします。単純に、いずれかのスイッチングジャック(インプットジャック)にプリアンプを接続し、1つまたは複数のトーンシェイプを試して、このパワーアンプで最も良いサウンドになるようにすれば良いのです。これらのボイシングはディストーションサウンドにも適していますが、試して欲しいこととして、クリーンサウンドもこれらの機能を使えば素晴らしいギターソロのサウンドになり得ます。それぞれのボイシングの説明に行く前に、少しプリアンプについても説明します。プリアンプという名前の通りですが、2:90はプリアンプに出力を与え、かつそのサウンドを強調します。例えばTriAxis。TriAxisは、MESA BOOGIEが長年待ち望んでいたオールチューブのMIDIプログラマブル・プリアンプですが、全てのMESA"スイッチトラック・ステレオアンプ"のボイシング機能をコントロール出来るようにデザインされており、2:90もその一つです。8つのプログラマブルモードやエフェクトループと同様に、4つのスイッチングタイプが組み込まれています(リアパネルに、"Switch 1-2-3-4"と書かれた4つのモノラルジャックを装備しています)。これらのジャックがフロントパネルの"LOOP/SW"キーによって一つずつまたは同時にオンになり、プリセットナンバーで保存されます。スイッチの1、2または3を2:90のボイシング機能に接続すれば、もう準備完了です。キーボタンを押せばTriAxisのエフェクトループとファンクションスイッチがオンになり、ループとスイッチングのコンビネーションが可能になります。ファンクションスイッチの望むLEDが本体右下で点灯していれば、プリセットで選んだパワーアンプのボイシングをTriAxisで選択することが出来ます。可能性は無限です。スイッチングにはどのようなケーブルでも使用できます。シールドのシグナルケーブルである必要はありません。

これらの隠された機能は、もしかしたらあなたを混乱させるかもしれません。ですが、別にこれらのボイシング機能は必要はなく、また使用しなくてもベストなトーンが得られるはずです。それでもまだ興味があるという場合は・・・以下読み進めて下さい。

### DEEP(ディーブ)機能/LED

このLEDが点灯しているときは、DEEP(ディーブ)機能が動作していることを示します。この機能を動作させるには、単純にTriAxisの出力ジャックから2:90のリアパネル左側にあるDEEPと書かれたINPUT(インプット)ジャックに接続します。それから、お好みのプリセットにTriAxisのスイッチを使ってプログラムします。そうすればDEEP機能でのサウンドが聞こえてくるはずですが、そのサウンドは、ローエンドのベースがより低く生き生きとし、ハイエンドのサウンドはウォームかつ立体的になります。またDEEP機能は、クリーンサウンドもディストーションサウンドも等しく強調しますので、お好みに調整して下さい。**注意**: 2:90をTriAxis以外のプリアンプで使用する場合、DEEP機能やそれ以外のボイシング機能をオンにする際には、標準の"TIP TO GROUND"スイッチをお使いください。

**注意**: MESA BOOGIE STUDIO PREAMPのオーナーの方へ・・・プリアンプのフロントパネルまたはリアパネルの"FOOTSWITCH"と書かれているチャンネルスイッチングジャックは、パラレル接続に配線されています。そのため、FOOTSWITCHを1つだけお使いになる場合は、他の使われていないジャックはボイシング機能のどれかに接続されます。この仕組みはお好みどおりではないかも知れませんが、いずれ役立つときが来るかもしれません。

## HALF DRIVE(ハーフ・ドライブ)機能/LED

DEEP機能のように、このLEDが点灯しているときはHALF DRIVEが選択されていることを示します。繰り返しになりますが、この機能を動作させるには、TriAxisの出力ジャックから2:90のリアパネル左側にあるHALF DRIVEと書かれたINPUT(インプット)ジャックに接続します。それから、お好みのプリセットにTriAxisのスイッチを使ってプログラムします。HALF DRIVEがオンになると、2:90の全体の出力が約半分になり、音量もそれだけ下がります。しかし高域のトップエンドは少し明るく、弾けたようになります。HALF DRIVEでクリーンサウンドを鳴らしてみると、この弾けた感じがお分かりいただけるとと思います。またハイゲインサウンドで試してみると、トップエンドが柔らかくなり、倍音が並んでダンスを始めます。全体的には、弾力があって演奏しやすいサウンドになります。また、HALF DRIVEで巨大なクランチ・コードを演奏すると、特にDEEP機能と併せて使用した時には力強いサウンドになります。HALF DRIVEは、本来はパワー部からより大きなゲインを得て、プリアンプのハイゲインサウンドと1つにします。これは本当に素晴らしいものですが、この機能のもう1つの素晴らしい使い方が見過ごされがちです。プリアンプからのクリーンサウンドの音量を上げて、それから完全に歪み切らない程度にフロントエンドのゲインを出来るだけ上げます。お分かりだと思いますが、ディストーションの入口までです。またHALF DRIVEをオンにすれば、本当にクールでブルージーなミディアムゲインのリードサウンドを得られます。よりダークにするかブライトなサウンドにするかは、トーンコントロールかまたは2:90のPRESENCE(プレゼンス)コントロールで調節して下さい。アナログの(プログラムできないタイプの)プリアンプでは、これは非常に有効な"エキストラ・モード"となります。TriAxisでは多くの可能性があなたを待ち受けています。先に述べましたが、HALF DRIVEは音量を下げます。この機能はもしかしたらTriAxisのオーナー以外には問題となりうるのかもしれませんが、そもそも2:90はTriAxisのシステムの片割れでしたので、他のプリアンプのオーナーには、もし不都合があれば謝るほかないのかもしれませんが、とにかく、全てのTriAxisのオーナーには、もしかしたら失敗なのかも知れないこの機能が、本当は実に素晴らしいものだということがすぐにお分かりいただけるでしょう！全ての素晴らしいプログラムが低い音量で得られるため、よりゲインや激しいサウンドが必要な場合でも、他の楽器との音量バランスを取ることが出来ます。またはTriAxisのマスターを上げて2:90をHALF DRIVEにすることで、モッシュの中でよりハードに歪ませることが出来ます。その他にも様々な状況に応じて、HALF DRIVEは2:90の本来持っている素晴らしいトーンを奏でることが可能なのです。

## MODERN(モダン)機能/LED

再度繰り返しますが、このLEDが点灯しているときはMODERNのボイシング機能が選択されていることを示します。このボイシングは、MARK IVアンプのPRESENCEシフトスイッチ、またDUAL RECTIFIER SOLO HEADの"RED"またはMODERNチャンネルに由来したもので、今日のハイゲインサウンドの限界をさらに押し上げたものです。非常に迫力のあるサウンドで、ソフトとは正反対の、ハードコアな攻撃性を持っています。超ハイゲインサウンドがお好みであれば、あなたのサウンドのアタックをさらに強調します。ゲインを上げて歪みを得る場合は、しばしば低域が落ちたり迫力がなくなったりすることがありますが、MODERNはその症状の特効薬として機能します。パワー部でパーカッシブな中域と高域が強調され、また低域がタイトになります。また、ほんの少しヘッドルームが加わりますので、音量も増加します。HALF DRIVEと同時に使用される際は、実質的な音量変化はありませんが、よりゲインや攻撃性、倍音や中域のカットそしてアタックが加えられます。このようにして、DEEPやHALF DRIVE、そしてMODERNで色々なサウンドの変化を試してみてください！色々な形容の方法があるのですが・・・とにかく色々なセッティングを試して、本機がこの地球上で最も進化し、かつコントロールが簡単な2つのトーン・パワーを持つことをご確認下さい。

## **LEVEL(レベル)A/B コントロール**

この2つのコントロールで、2:90のそれぞれのチャンネルの音量を調節します。

**注意:**もし片側のチャンネルのみにスピーカーを接続し、もう一方にはスピーカーを接続しない(負荷をかけない)場合は、使用しないチャンネルのLEVELコントロールの設定を反時計回り一杯(ゼロ)に回しきっておいて下さい(PRESENCEコントロールを上げたときの不要な発振を防げます)。

## **PRESENCE(プレゼンス)A/B コントロール**

サウンドの明るさを調節します。たとえばクリーンサウンドでは高めに設定すると弾けるようなサウンドに、またディストーションサウンドではサウンドにエッジを加えることができます。PRESENCEを低めに設定すると、サウンドがダークになり、リードサウンドが圧縮され、より温かみのある太いサウンドになります。PRESENCEコントロールを反時計回り一杯(ゼロ)にするとジャズのクリーンサウンドや丸いボーカルのようなリードサウンドに最適です。

## **POWER(パワー)/STANDBY(スタンバイ)スイッチ**

PRESENCEコントロールの横にあるこれら2つのトグルスイッチは、本機に電源を供給する(オンにする)ためのスイッチです。使用していない状態から電源をオンにする際は、常にPOWERスイッチからオンにします。POWERスイッチをオンにしてから30秒ほど待機し、それからSTANDBYスイッチをオンにします(冷えた真空管にショックを与えることを防ぎ、また真空管の寿命を伸ばすことができます)。

**注意:**パワー管の寿命は、演奏頻度/演奏時間/機材の取扱い方等、様々な要素によって左右されます。

## **MAIN FUSE(メインヒューズ)**

パイロットライトの上にある埋め込み式のグレーのヒューズキャップは、本機のメイン・ヒューズを支えています。ヒューズが断線した際は、元々付いていたものと同一のアンペアの6.25A SLO-BLOタイプのヒューズと交換して下さい。

## リアパネル

ここからは、いくつかのジャックや真空管が装備されているリアパネルを見て行きましょう(ジャックパネルについては、フロントパネルの説明とも関連しています)。

### INPUT(インプット)ジャック B/A

ジャックパネルの一番上には、2つの1/4"ジャックが装備されています。これらはプリアンプまたは外部エフェクト機器用のインプットジャックです。何を接続するかは、お使いのシステムの接続方法に拠ります。例えば、本機に直接プリアンプを接続する場合や、シグナルチェーンの最後のエフェクト機器と接続して本機を駆動させる場合もあります(どちらにしても、お好みの方法での使用が可能です)。また、それぞれのチャンネルにINPUTスイッチ(入力感度スイッチ)が装備されており、INSTRUMENT(楽器)レベルと、より感度の低いLINE(ライン)レベルを切り替えることが出来ます。例えば、お使いのシステムで本機に入力するまでの信号が多いという場合は、LINEレベルにスイッチを切り替えます(通常はこのようにします)。もしお使いのプリアンプに十分なSEND(送)レベルが無い場合や、ギターを直接本機に接続する場合はINSTRUMENTレベルに切り替えます。ギターを直接接続する場合は、甘いクリーンバックングサウンドが聴こえてくるはずですが、音量を上げて、ビンテージ・ソロサウンドをお楽しみ下さい。またこのセットアップでボイシング機能を使用すれば、あなたがプリアンプでどんなサウンドを望んでいるかがお分かりいただけることでしょう。実際、2:90はそれ自体が独立した1つのアンプとして使用可能なので、通常のソリッドステートのパワーアンプと併用してみてください!

### VOICING(ボイシング)スイッチ

フロントパネルの項で述べたように、これらの1/4"ジャックは2:90の3つのボイシング機能を起動させる役目を果たしています(それぞれDEEP/HALF DRIVE/MODERNとなっています)。繰り返しますが、それぞれのジャックは"TIP TO GROUND"または"COLLECTOR TO GROUND"タイプのスイッチで起動します。TriAxisのオーナーであれば、これらのタイプのジャックがいかに有効で、本体に搭載されている機能と呼び出してプログラムナンバーで保存できるということがお分かりいただけるでしょう。もしTriAxisをお持ちでない場合は、"TIP TO GROUND"タイプのON/OFFスイッチを使用して下さい(シールドケーブルは必要ありません)。

### SPEAKER(スピーカー)ジャック

これらの6つのジャックは、本機の素晴らしいトーンをお好みのスピーカーに出力します。それぞれのチャンネルに、1 x 8Ωと、2 x 4Ωのジャックが装備されています。8Ω負荷のスピーカーを1台使用する場合は、1つの8Ωジャックに接続します。8Ω負荷のスピーカーを2台使用する場合は、2つの4Ωジャックに接続します。4Ω負荷のスピーカーを1台使用する場合は、1つの4Ωジャックに接続します。16Ω負荷のスピーカーを1台使用する場合は、1つの8Ωジャックに接続します。16Ω負荷のスピーカー2台を使用する場合は、"Y"ケーブルを使用して1つの8Ωジャックに接続するのが良いでしょう。これらはスピーカー接続についてほとんど全てを網羅していますが、忘れないで頂きたいのは、両方のチャンネルに正しい負荷をかけることです(問題がないかどうか、LEVELコントロールをゼロにし、PRESENCEコントロールを時計回り一杯に回しきって確認して下さい)。また、使用していないチャンネルのインプットには信号を送らない(何も接続しない)ようにして下さい。



*The Spirit of Art in Technology™*



——— 正規輸入代理店 ———

**株式会社 キョーソツコーポレーション**

**カスタマーサポート**

〒103-0012

東京都中央区日本橋堀留町 1-9-11

NEWS 日本橋堀留町ビル 10F

TEL : 03-5614-4133 FAX : 03-5614-2166

E-MAIL : support@kcmusic.jp